



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 2568 号 2015.8.4 発行

哀歓記：「ママ」と呼び続け /大阪

毎日新聞 2015年08月03日

真夏の日差しが照りつけるベランダで、ビニールプールに入って水遊びをするのが大好きでした。

今年の夏は、もうその姿がありません。

豊中市の服部緑地の池で今年3月15日午前11時15分ごろ、疋田逞大（ひきたていた）君（当時6歳）の水死体が見つかりました。

2月28日に約95メートル離れた施設から姿を消し、行方がわからなくなっていました。

疋田君は自閉症という発達障害を抱えていました。

生まれた時の体重は1930グラムでした。「たくましく、大きく育てほしい」。母親（34）はそう願って名付けました。

しょっちゅう熱を出していましたが、2歳ごろからは丈夫になりました。

ただ、言葉をなかなかしゃべることができませんでした。初めて「ねんね」と言ったのは4歳ごろです。

いなくなった日は、いつものように「バイバイ」と声をかける母親とハイタッチをして、元気に自宅を出ました。

姿を消したのは帰宅時間の午後4時半ごろです。無施錠の裏口から裸足のまま外に出たようです。

どこに行ったのか。警察官や市職員、近所の人らが連日、周辺を捜しました。

母親は「逞大おいで」という声を録音し、市の公用車から流してもらいましたが、反応はありませんでした。

15日後、池に浮いているのを通りがかった人が見つけました。府警は誤って池に落ちたとみえています。

池のフェンスには今も、色とりどりの花やおもちゃがいっぱい供えられています。

「ちょうだい」「もう1回」……。疋田君は亡くなる1年ほど前から、いろんな言葉を話すようになりました。

しかし、大好きな母親を「ママ」と呼ぶことができませんでした。

2月4日。普段通っていた、今回とは別の施設で親子と一緒に過ごす日でした。

疋田君が乗った大きなタオルを、2人の先生が四隅をつかんで持ち上げてぶらぶらと横に揺らしました。

「どこに飛んでいきたい？」

「ママ」

その声は教室にいた母親の耳に届きませんでした。先生たちは歓声をあげました。

「毎日、心の中で『ママ』と呼んでくれていたと思う」。母親のまぶたには、甘えん坊だった一人息子の愛らしい姿が焼き付いています。<文・三上健太郎/絵・遠藤浩二>

社説：中2いじめ自殺／「救えた命」を深い教訓に 河北新報 2015年08月04日

断続的ないじめが13歳の命を追い詰めていた。学校は切迫した状況を把握できず、十分な手を尽くせなかった。

岩手県矢巾町で中学2年の村松亮君（13）が、いじめを苦にして自殺したとみられる問題で、通っていた中学校は「いじめが自殺の一因」とする調査報告書をまとめた。

いじめが疑われる事案が1年生のときから計13件あり、うち6件を「いじめがあった」と認定した。いじめと判断できない事案も含め、「その積み重ねが心身の苦痛を増大させ、自殺の一因になった」と結論付けた。

約1年3カ月間、しつこくいじめにさらされ、苦（く）悶（もん）した村松君の心情を思うとき、言葉もない。

報告書は自殺を防げなかった責任を「学校全体として村松君に手を差し伸べて救うことができなかった」と明示。校長には「過信があった」とし、教職員は「生徒間トラブルを、からかい、ちょっかいと捉え、いじめを認識できなかった」と指摘した。

村松君を追い込んだ要因は学校組織に包含されていた。全国で繰り返されるいじめ問題を通じ学んだはずの対処ノウハウは、全く生かされなかった。残念ながら、似たような状況にある教育現場は、この学校だけではあるまい。

いじめを察知する努力を怠っていないか、教員間にいじめは存在しないという決めつけの空気はないか。痛ましい教訓を生かすためにも、全国の学校や教育委員会は早急に総点検に着手してほしい。

村松君は担任教諭と交わした生活記録ノートで、いじめに関する幾つものシグナルを送っていた。報告書によると、担任は親身になって相談に乗り、いじめに関与した生徒を何度も指導した。

ノートの最後の記述となった6月29日、村松君は「先生からはたくさんの希望をもらいました。もう市（死）ぬ場所は決まってるんですけどね」と記した。担任は異変を感じてすぐに声を掛けた。村松君は「大丈夫です」と答え、翌日からの宿泊研修について話し合ったという。

担任はノートに「明日からの研修たのしみましようね」と書いた。「少しでも明るい方向に持っていき、研修を楽しめるようにという思い」だったと証言している。

担任は悩みが吐露されるたびに寄り添い、村松君も一定程度、信頼を寄せていたようだ。担任のもう一段の深い思慮と教師を孤立させない学校のサポートがあれば、最悪の事態は防げたのではないか。

校長は「いじめが存在してはならないという雰囲気が認知を妨げた」「担任だけに生徒指導を抱え込ませ、学校全体の問題として捉えなかった」と釈明した。「いじめゼロ」という虚飾的な意識が組織の力を無にしていたことは、本末転倒と言うほかない。

子どもたちの学びやは、ともすれば外部の目が届かない閉鎖空間になりがちだ。一般社会と懸け離れた「学校の常識」が、生徒の命に関わる可能性さえあることを教育関係者は肝に銘じるべきだ。

悲劇を繰り返してはならない。村松君の死を胸に刻み、いじめの根絶につなげたい。

低額提供義務は乱暴 高橋氏「社福法人に影響大」 しんぶん赤旗 2015年8月3日

日本共産党の高橋千鶴子議員は7月29日の衆院厚生労働委員会で、社会福祉法人に3億円超の「内部留保」があるとして、社会福祉法人法改悪案で新たに無料・低額の福祉サービス提供を義務付けることを批判し、同法案の撤回を求めました。

高橋氏は7月10日の参考人質疑での与党推薦の参考人発言をあげ、「ほとんどの法人で地域における公益的取り組みをすでに行っている」と指摘。制度のはざまのさまざまなニーズに応えるのが社会福祉法人の本旨という塩崎恭久厚労相の答弁に対し、「社会福祉法人の本旨は憲法25条の実施だ。制度のはざまが本来任務か」と追及しました。厚労省の鈴

木俊彦社会・援護局長は「社会福祉法人の本分は社会福祉事業であり、維持し充実していただくことだ」と認めました。



質問する高橋千鶴子議員＝7月29日、衆院厚労委

高橋氏は、社会福祉法人の現況報告書の中に「福祉ニーズへの対応状況」の記載欄があるが、把握しているのかと質問。鈴木局長は「所轄庁どまりでデータがない」と答え、高橋氏は「調査結果を見もせず義務化することはあまりに乱暴だ」と批判しました。

高橋氏は、介護事業を展開している大手株式会社トップ10が増収増益という資料を示し、同じ公費を原資としているのに本法案の適用ではなく、国は指導もしていないと強調。社会福祉法人は介護報酬引き下げと重なってダブルパンチとなっていることにもふれ「影響をみて必要な対策をとるのが先だ」「基本報酬を上げることで担い手を確保するのが本来やるべきことだ」と主張しました。

ペットボトル3千本で竜宮城 魚住の障害者施設で制作 神戸新聞 2015年8月4日



ペットボトルで竜宮城を制作する利用者とスタッフ＝明石市魚住町金ケ崎

竜宮城をイメージしたオブジェを約3千本のペットボトルでつくるプロジェクトが兵庫県明石市魚住町金ケ崎の生活介護事業所「すたじおぼっち」で進められている。近隣の住民がペットボトルを集め、同施設を利用している障害者や家族、支援者らが力を合わせて制作。8月8日に仕上げのワークショップが行われ、参加者を募集している。

同事業所は知的障害などがある27人が絵画や粘土などの創作活動を楽しみながら過ごしている。竜宮城づくりは夏の思い出となることを目指して企画。近隣地域の小学校や高校などにペットボトルの回収を依頼したところ、目標の2千本を大きく上回る3千本以上が集まった。

竜宮城は直径、高さとも約3メートルを想定。数個ずつテープで巻き、重ねて固定する。7月4日から制作を始め、8月8日のワークショップで完成させる予定。当日は着色した水を入れたペットボトルやタコをイメージしたオブジェなどの飾り付けも行う。

利用者の女性（35）は「大きな竜宮城になるので、たくさんの人に見てほしい」と話し、支援員の女性（33）は「ワークショップは、さまざまな人が一緒に制作を楽しむ出会いの場にしたい」と話す。

ワークショップは午後1時半～4時。申し込み不要、無料。すたじおぼっちTEL078・220・7790（井原尚基）

知的障害者「本人の声を聴く」会：男女7人が思いを発表 仕事や趣味、目標生き生きと／福岡 毎日新聞 2015年8月03日

知的障害がある人々が日ごろの思いや目標を発表する「本人の声を聴く」会が2日、中央区のあいあいセンターであり、知的障害者支援施設などに通う20～50代の男女7人が意見を発表した。知的障害者の家族でつくる社会福祉法人「福岡市手をつなぐ育成会」保護者会の主催。

発表のテーマは「私の生活～自己紹介、家庭や仕事や余暇のこと、目標やこれからの夢のこと」。家族ら約100人が見守る中、事業所での仕事の様子や「歌うことが好きなので、もう少し難しい歌も歌ってみたい」などの目標を発表した。

両親とプロ野球の試合を観戦した思い出や、家族への感謝の思いを発表した福岡市の下

山大地さん（20）は、終了後に「楽しかったです」と緊張冷めやらぬ様子で話した。

保護者会の下山いわ子会長は「本人たちのやりたいこと、したいことに耳を傾け、みんなが幸せに暮らせる社会になるように活動していきたい」と話していた。【川上珠実】

廃れた寺を福祉施設に 石川、温泉付きで一般客も利用 日本経済新聞 2015年8月3日

石川県小松市の荒れ果てた寺が、天然温泉の銭湯を備えた福祉施設に生まれ変わり、地域のにぎわいづくりに一役買っている。サービスを受ける高齢者や障害者に加え、一般の利用客も含めると、多い時で250人近くの人を訪れるという。

施設は三草二木西園（えん）寺。2008年にオープンし高齢者のデイサービスや障害者の生活介護と就労支援をしている。元は1473年創建の浄土真宗の寺。05年に住職が亡くなり廃寺となった。

お寺の外観をそのまま残した建物に入ると、元は本堂だった60畳間で高齢者がテーブルを囲み、笑い声を響かせていた。併設したカフェでは就労支援を受ける障害者が食事を運ぶ。一角にある駄菓子販売のコーナーは学校帰りの子供の遊び場に。カフェは夜、近所のシニア世代が調理の腕を振るう居酒屋に変わる。

開設したのは同県白山市の社会福祉法人佛子（ぶっし）園。「廃れた寺を何とかして」と町内会から相談を受け、改修することにしたという。

特に好評なのは地下約750メートルから湧き出る掛け流し温泉。土間や仏間を浴場に改装し、地域の69世帯には無料で、一般客には400円で開放している。

施設長の安倍真紀さん（39）は「ここはいろんな人が日常的に交流する場所」と話す。福祉施設に抵抗がある高齢者も顔なじみが多いため、気軽に立ち寄れるという。デイサービスを利用する女性（86）も「週4回は使っているが、毎回来るのが楽しみ」と笑顔を見せた。〔共同〕

障害者が思いを歌に - 入賞の8人披露／わたぼうし音楽祭 奈良新聞 2015年8月3日 8人の入賞者が順に歌を披露したわたぼうし音楽祭=2日、奈良市登大路町の県文化会館

障害のある人がつづった詩をメロディーに乗せて歌うコンサート「40周年記念わたぼうし音楽祭」（奈良たんぼぼの会主催）が2日、奈良市登大路町の県文化会館で行われ、わたぼうし大賞に大阪市の丸井沙希さん（14）が作詩した「花」が選ばれた。



全国から「作詩の部」と「作詩・作曲の部」に合わせて691点の応募があり、約千人の観客で満員となったホールで入選者8人の歌が披露。マリンバ奏者の松本真理子さんを審査委員長に、審査員15人と会場審査員50人により各賞を決定した

福岡市：高齢者交通乗車券、今夏からタクシー追加 最高で年1万2000円交付 /福岡 毎日新聞 2015年08月03日

福岡市が70歳以上の高齢者と障害者に、社会参加を促進する目的で交付している交通乗車券に今夏からタクシーの助成券が加わった。最高で年額1万2000円分の交付が受けられる。交付申請は、70歳以上の障害者が3日から、同高齢者は9月1日から各区役所で受け付ける。

交通乗車券はこれまで、地下鉄やバスなどで利用できるICカード▽市営渡船の乗船引

換券▽乗り合いマイクロバス（今宿姪浜線）の回数券から、対象者の希望する1種類を交付してきた。しかし、「家からバス停や駅まで遠い」などの理由で公共交通機関の利用が困難な高齢者の要望を受け、タクシー助成券を選択肢に加えた。事業費は計15億2672万円。高島宗一郎市長は「高齢者に外出してもらうことで、社会参加や健康維持など生活の質の向上につなげたい」としている。【林由紀子】

介護施設で働けば家賃補助、中古車、引っ越し代も 島根県浜田市が始めたひとり親家庭の定住促進策

福祉新聞 2015年08月03日 福祉新聞編集部



貸し切りバスで移動した

島根県浜田市では2015年度、市外のひとり親家庭を対象に、市内の介護施設で親が働くことを条件に支援する事業（シングルペアレント受け入れ事業）を始めた。全国から希望者を募り、6人が7月に受け入れ先の七つの介護施設を見学して回った。定住促進策として、ひとり親家庭に限定するのは全国的にも珍しいという。見学面談会に同行した。□

「ようこそ浜田市へ」。6人が訪ねると、各介護施設で温かく迎え入れられた。

6人は20～40歳代の女性で、千葉県、愛知県、大阪府などから参加。子連れで来た人もいた。ほとんどの人が介護の仕事は未経験だ。

見学面談会は3日間の日程で、1・2日目は7施設を巡り施設の紹介、仕事内容などの説明を受け、施設内も見学。3日目は各施設との個別面談会が開かれた。

一行は貸し切りバスで移動。途中、保育園や小中学校などの側を通り、周辺施設や生活情報について同乗した市職員から話を聞いた。**シングルペアレント受け入れ事業の支援メニュー 全国から反響**

浜田市では人口減少と高齢化が進んでおり、同事業は、ひとり親家庭を手厚く支援することで定住を促し、介護人材の確保にも結びつけるのが狙いだ。

具体的には、年内に引っ越しして施設で研修を受け就労するなどの要件を満たすひとり親家庭に対し、1年間、養育費や家賃などを補助する（表参照）。

5月に新聞やインターネットなどで募集したところ、北海道から沖縄まで30都道府県から約150件の問い合わせがあった。市の政策企画課は「想像以上の反響だった」と話す。最終的に15人が申し込み、今回は都合のついた6人が参加した。

市では今年度800万円の予算を組み、3世帯程度の受け入れを想定しているが、希望者が増えれば対応する方向だ。

市内には特別養護老人ホームが9カ所あり、定員50人規模が多い。今回はそのうち六つの特養が受け入れ施設となった。

慢性的な人手不足

島根県福祉人材センターによれば、2014年度の県の求人倍率は1.77倍。県内では

項目	内容（1年）
給与	月額15万円以上（各事業所の規定に準じる）
養育支援	1世帯につき月額3万円
家賃補助	1世帯につき家賃月額2分の1
自動車の提供	中古自動車を無償提供
支度金	引っ越し代などとして事業者から30万円支給
奨励金	1年間の研修終了後、事業者から100万円支給
資格取得支援	事業者負担で介護職員初任者研修を受講

松江市のある東部（都市部）に比べて浜田市のある西部はより人手が不足している。センターでは年2回、就職フェアを開いたり、県内に4校ある介護福祉士養成校でガイダンスを行ったりしているが、慢性的な人材不足が続いている。

県ではU・Iターン支援策を積極的に展開しているが、農業などが中心。今回の浜田市の事業は介護施設に特化している。

参加した施設は「介護人材に絞ってもらいたい」「募集してもすぐに人は集まらず、市外からでも働きたいという気持ちを大事にしたい」「市の労働力を考えると遠方からも人材を受け入れる必要がある」といった声が聞かれた。

夜勤時の預け先

1歳の娘がいる愛知県から参加した女性（20代）は「ひとり親と分かっているので応募しやすかった。田舎で子育てしたいと思っていた」、大阪府から1歳の息子と来た女性（40代）は「住む所と働く条件が合えば早く引っ越してきたい」と話した。

個別面談では、介護未経験による不安のほか、子どもの急病時や夜間勤務の体制などについて相談があった。どの特養でも月に約4回は夜間勤務があり、その間、小さな子どもの預け先を確保できるかが課題となった。



地図を広げて説明を受ける

市では対応策としてファミリーサポートセンターの拡充を検討し、移住生活の不安に寄り添う専門相談員の配置も予定している。

久保田章市・市長は「私もUターン組。保育園、学校、職場が車で15分以内で移動できるので、子育てしやすく、暮らしやすい街」と呼び掛けた。

それぞれが研修へ

3日間、行動をともにした一行は打ち解けた様子で、子ども同士が遊んだり、小さな子が泣くと他の親や市職員があやしたり、和やかな雰囲気の中で全日程を終えた。

終了後、参加者に話を聞くと、「希望する施設を決めてのぞんだが、全施設の話聞いて横一線になった」「施設を見学し雰囲気を感じて自分に合いそうな施設がはっきりした」と感想はそれぞれ。

6人は各自希望する施設を市に申し出て審査を経て、早ければ8月にも各施設での研修が始まる。

障害者施設：行政処分中に虐待…入所者押し倒す 西東京 毎日新聞 2015年08月03日

入所者への虐待で東京都から新規利用者受け入れ停止処分を受けている知的障害者入所施設「たんぼぼ」（西東京市、社会福祉法人田無の会運営）で6月、新たに男性職員が入所男性を押し倒す事案があったことが分かった。施設が都に申告した。

関係者によると、男性職員が6月17日早朝、入所男性の下着を替えようとしたところ、拒まれたため脱がしたままにした。その後、別の男性職員が居室棟の廊下でこの入所男性を押し倒し、転倒させた。入所男性にけがはなかったが、1時間ほど下着をつけていなかったとみられる。

入所男性の首にひっかき傷があり施設側が調べ、押し倒した職員が「自傷行為を止めようとしてできた」と話した。転倒させたことも認め「別の入所者を介助中、近寄ってきた男性を避けようと押した」と説明したという。たんぼぼでは過去にも職員による入所者への暴行が問題化。今年2月に就任した新理事長は「許されないこと。職員研修を進める」と話している。【野倉恵】

障害年金格差、更新時も 13年度、都道府県間で1.1倍 打ち切り・減額7787人 判定にばらつき 共同通信 2015年8月3日

国の障害基礎年金を受け取っている人のうち、更新時に「障害が軽くなった」などとして支給を打ち切られたり、減額されたりした人の割合に都道府県間で最大1.1倍の開きがあったことが2日までに、日本年金機構の2013年度分データの集計で分かった。

支給停止・減額となったのは全国で7787人。岡山では更新対象者の12.1%に上る一方、最低の島根では1.1%だった。障害が軽くなった人が特定の地域に偏っているとは考えにくく、審査する医師の主観による判定のばらつきで、受給を続けられたはずの人まで年金を受け取れなくなった可能性がある。

障害基礎年金をめぐるのは、新規に支給を申請して不支給と判定される人の割合でも、最大約6倍の地域差があることが分かっている。更新時にも大きな不公平が生じているといえそうだ。

厚生労働省は先月30日、地域差が特に大きい精神・知的・発達障害を対象に、客観的な指標を盛り込んだ新たなガイドラインをまとめた。年内にも年金機構内で通知を出し、年明けに実施する考え。

障害年金では、身体障害などで状態が変動しない場合を除き、1～5年ごとに更新手続きが必要。多くの人が受け取る障害基礎年金は、年金機構の都道府県事務センターが地元の医師（認定医）に審査を委託している。

認定医たちが1人で審査しており、個人の裁量が入りやすいほか、認定医が交代して判定が変わったということも考えられる。

岡山に続き停止・減額の割合が高かったのは、兵庫（10.2%）、神奈川（9.6%）など。低かったのは島根のほか、長野（1.5%）、宮城（1.6%）など。全国平均は4.9%だった。

「障害が重くなった」として年金額が増えた人は全国で4310人。岡山は増額になる人の割合も2位と高かった。

不支給と停止・減額で都道府県ごとの傾向は必ずしも一致しないが、兵庫はいずれも割合が高く、宮城、長野は低いなど一致する地域もあった。

▼突然の収入減、大きな影響 障害年金更新で格差

【解説】障害年金の打ち切りや減額は突然、収入が途絶えたりするため、新規に申請して不支給となるよりも、障害者の生活は大きな影響を受ける。しかし判定の理由は十分に説明されず、不透明な状態が続いている。

障害者団体などは不支給だけでなく、更新に伴う支給停止・減額の件数も公開するよう、厚生労働省と日本年金機構に求めているが、これまでは一部の地域のデータしか明らかにされていなかった。全国の様子が判明するのは初めてで、理不尽な判定で年金を打ち切られた人がいないか、ようやく検証が可能になってきた。

都道府県	人数	割合
北海道	173	2.2
青森	77	3.2
岩手	57	4.1
宮城	56	1.6
秋田	47	3.2
山形	63	4.4
福島	101	3.1
茨城	199	7.5
栃木	71	2.8
群馬	110	4.9
埼玉	452	4.4
千葉	779	7.7
東京	914	7.1
神奈川	613	9.6
新潟	124	5.6
富山	20	1.8
石川	63	2.8
福井	25	2.9
山梨	60	4.4
長野	52	1.5
岐阜	77	3.7
静岡	196	4.8
愛知	173	3.0
三重	36	2.7
滋賀	61	4.4
京都	83	1.8
大阪	520	8.4
兵庫	780	10.2
奈良	120	4.2
和歌山	48	2.3
鳥取	33	3.4
島根	14	1.1
岡山	242	12.1
広島	195	5.1
山口	104	6.6
徳島	62	9.4
香川	67	5.6
愛媛	51	2.4
高松	47	2.0
福井	223	3.1
佐賀	59	4.7
長門	86	2.6
熊本	64	2.1
大分	74	3.0
鹿児島	54	3.2
沖縄	72	2.9
全国	7787	4.9

※日本年金機構による「割合」は更新対象者のうち、支給停止・減額となった人の割合(%)

障害基礎年金の停止は、障害等級が1級なら月約8万1千円、2級なら約6万5千円の収入がなくなることを意味する。ところが、その通知は「年金の支払いを停止しました」などと過去形の文面で届き、理由の説明は「障害の状態が変わったため」といった一言だけ。多くの人が納得できない思いを抱えている。

例えば知的障害の場合、障害の程度が大きく変わることはないが、就労すると給与が月にわずか数万円でも、支給停止・減額にされることがある。判断は年金機構の認定医によってまちまち。「認定医が代わって判定が厳しくなり、停止・減額が増えた」という元職員の証言もある。

▼障害年金の更新

【ズーム】 障害年金の更新 障害の状態が変わっていないか調べるため、日本年金機構の認定医が受給者ごとに1～5年の幅で期間を設定。受給者は更新の時期が来たら、主治医の診断書を提出し、認定医が等級（1～3級）を判定し直す。障害基礎年金は最も軽い3級では支給されないため、「2級に該当しない」と判定されると支給停止。1級から2級に下がると、支給額が月約8万1千円から約6万5千円に減額される。2013年度は約15万9千人が更新を迎え、9割以上の人は「変更なし」だった。年金機構は12年度以前のデータは明らかにしていない。

英元首相に児童性虐待疑惑 独立委、警察対応調査へ 共同通信 2015年8月4日

1970～74年に英国首相を務めた故エドワード・ヒース氏に児童への性的虐待疑惑があったのに、適切に捜査しなかった疑いがあるとして、「警察の苦情に関する独立調査委員会（IPCC）」は3日、当時の警察の対応を調査すると発表した。

対応が問題視されているのはヒース氏が住んでいた南部ウィルトシャーの警察。同氏による虐待は90年代にあったとされるが、詳細は不明。IPCCが関係者に情報提供を呼びかけている。

ヒース氏は保守党所属で、欧州連合（EU）の前身である欧州共同体（EC）への英国の加盟に尽力したことで知られる。2005年に89歳で死去した。

教育学部2課程 熊大が募集停止 2017年度以降

読売新聞 2015年08月04日

熊本大は、教育学部の「地域共生社会課程」（定員20人）と「生涯スポーツ福祉課程」（同40人）について、2017年度以降の学生募集を停止すると発表した。両課程は21年度末までに廃止する予定。

両課程は、教員免許を取得しなくても卒業できる。同大によると、全国的な教員就職率の低下などに伴い、1997年に生涯スポーツ福祉課程を、2000年に地域共生社会課程を開設した。同大は廃止の理由について、「教員養成機能の強化を図るため」と説明している。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も



大阪市天王寺区生玉前町5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行